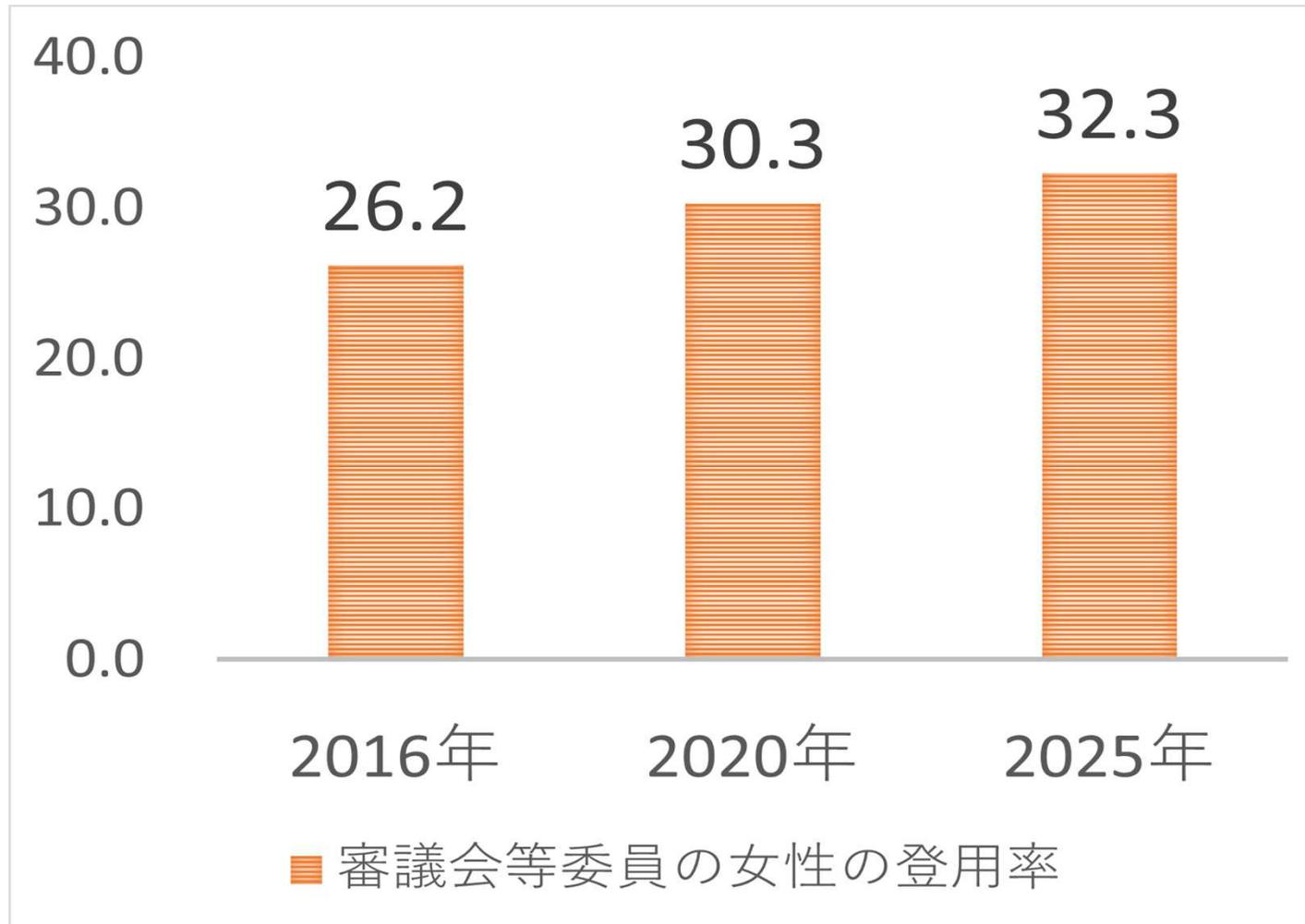


春日井市の**成果**と**課題**

～新たな男女共同参画プランの策定に向けた課題の整理～

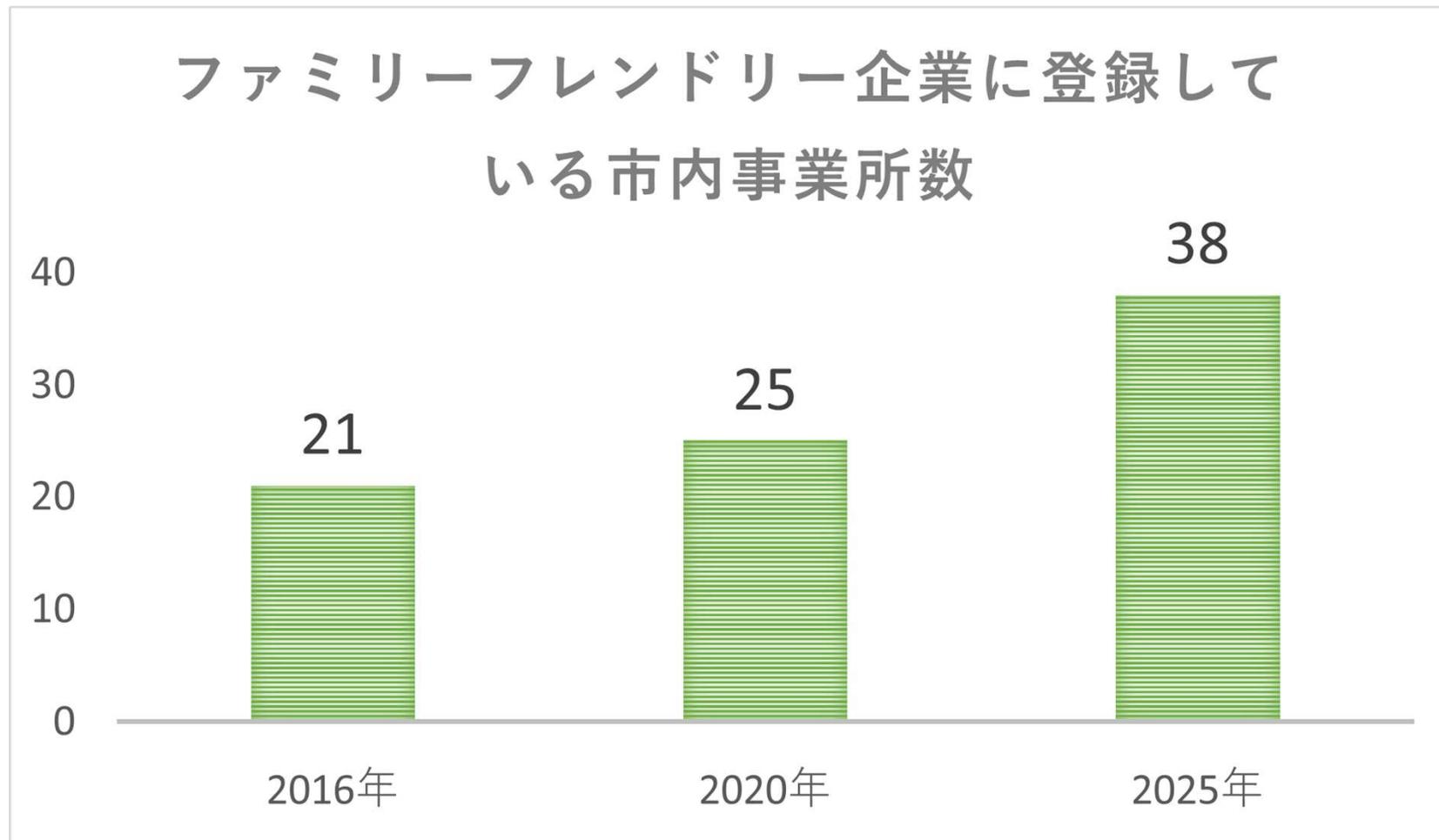
■本審議会等の委員等の女性の割合は上昇しています

審議会等委員の女性の割合は目標に達していませんが、着実に増加しています。



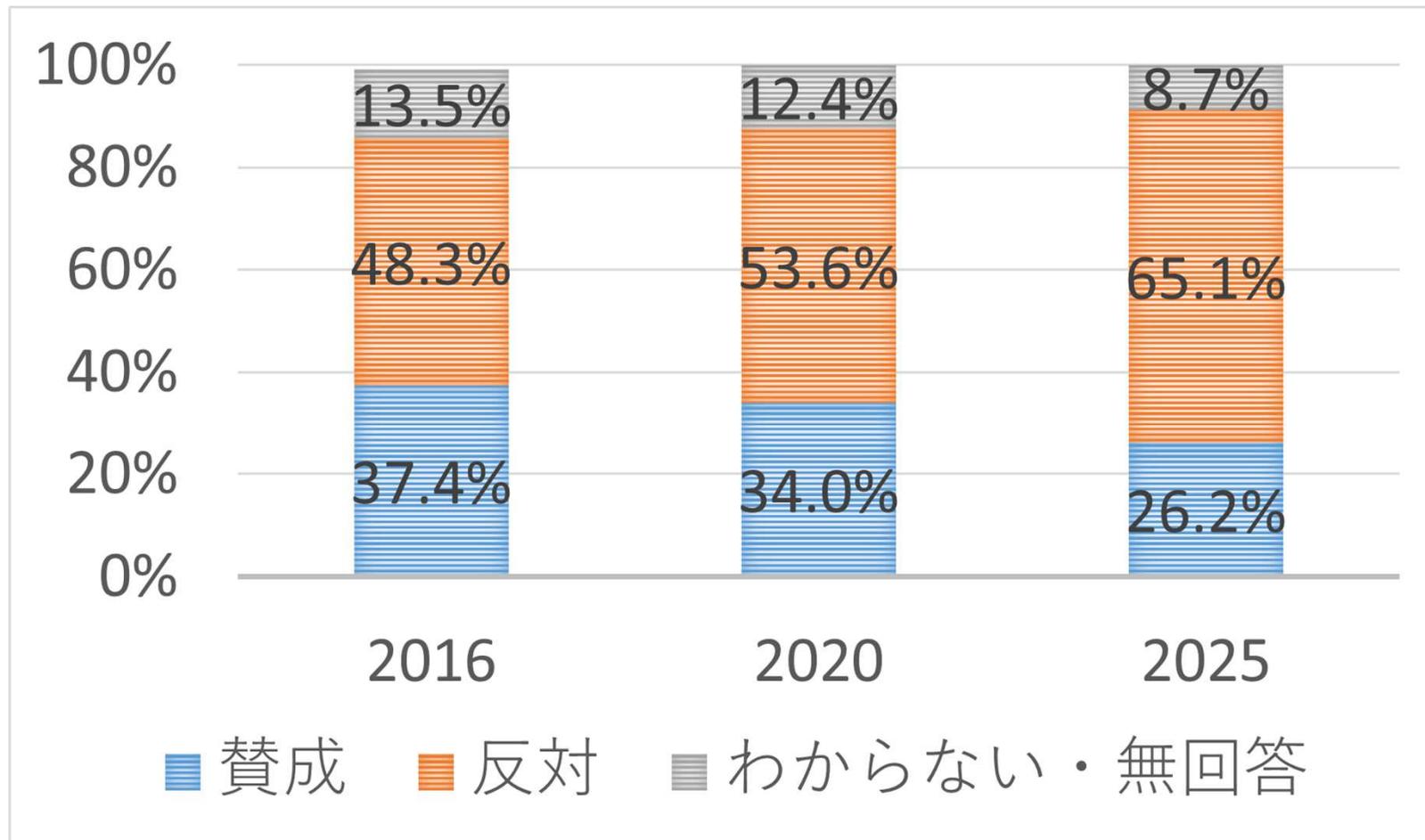
■ワーク・ライフ・バランスを推進する企業の取組が進んでいます

市内事業所において、長時間労働の削減や有給休暇の取得推進などの取り組みが行われています。ファミリーフレンドリー企業の数も増加しており、事業所におけるワーク・ライフ・バランスの推進は着実に進んでいます。



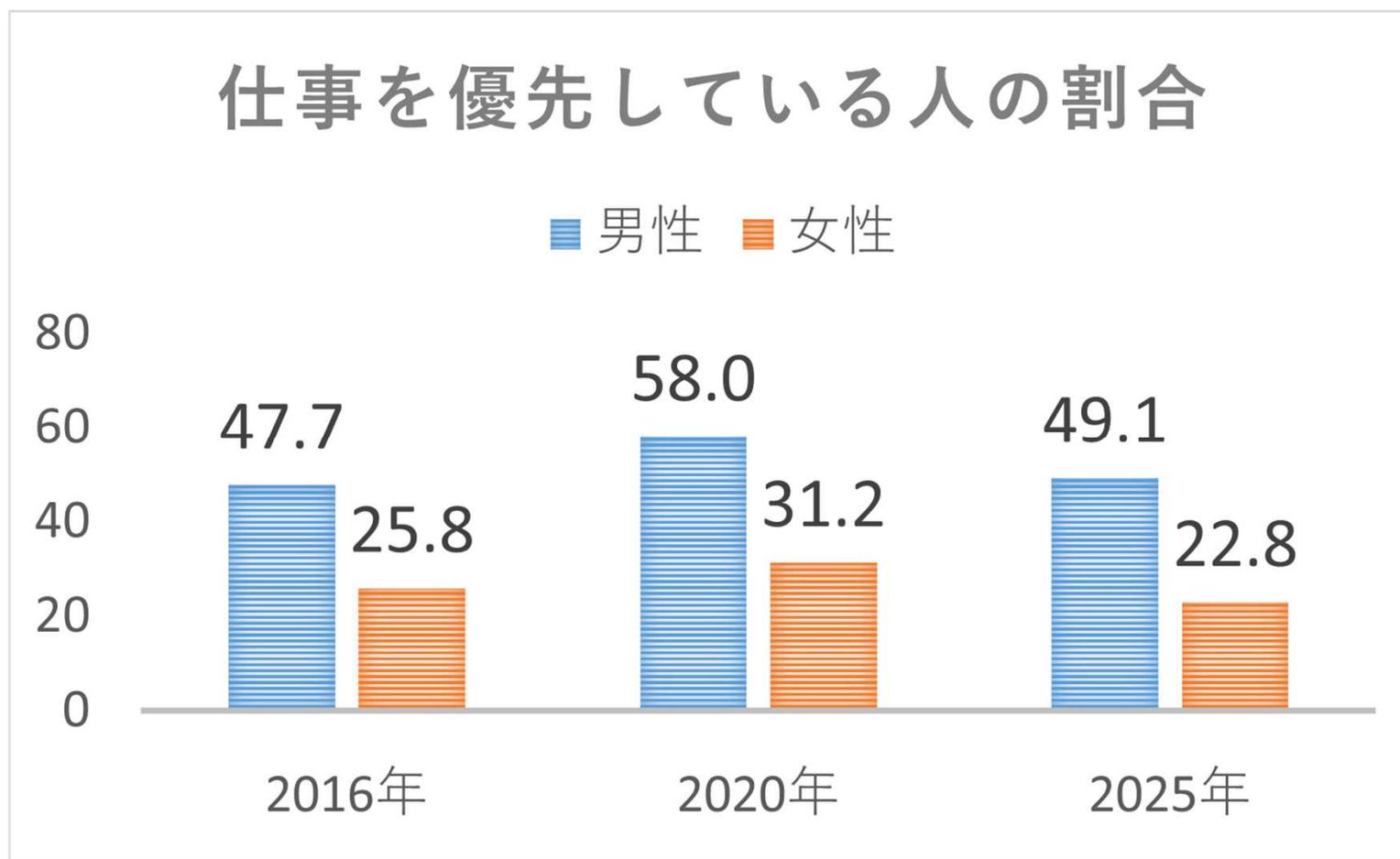
■男女共同参画に対する意識は高まっています

「男性は仕事、女性は家庭」という考え方に反対する割合は上昇しており、固定的な性別役割分担意識は解消傾向にあります。



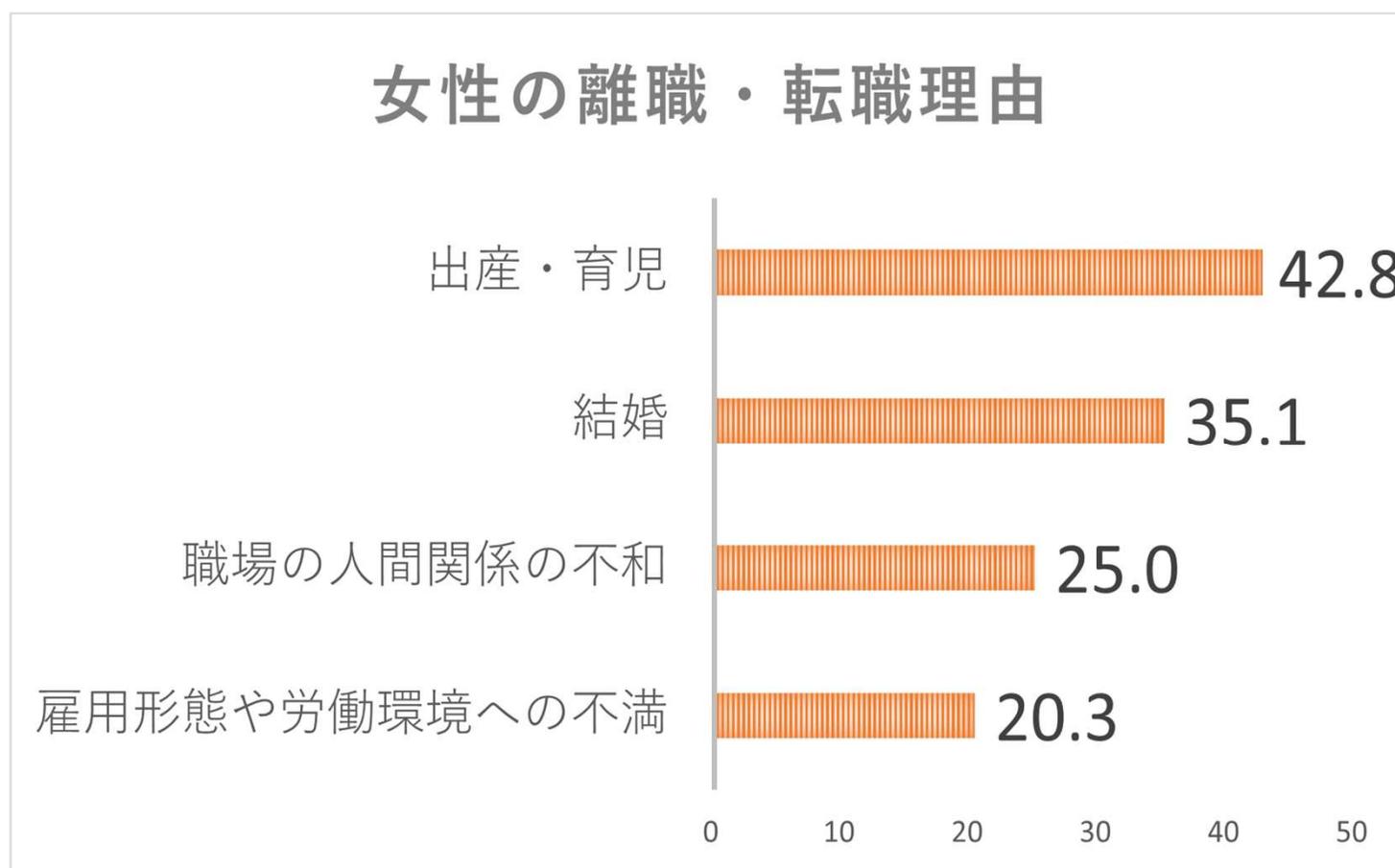
■男性中心型の労働慣行が依然として残っています

暮らしの中で仕事を優先している人の割合が多く、男性が生活において仕事を優先している現状が見られることから、男性中心型の労働慣行が残っているとと言えます。男女ともに個性と能力を発揮した職業生活、家庭生活を送ることができる環境づくりが必要です。



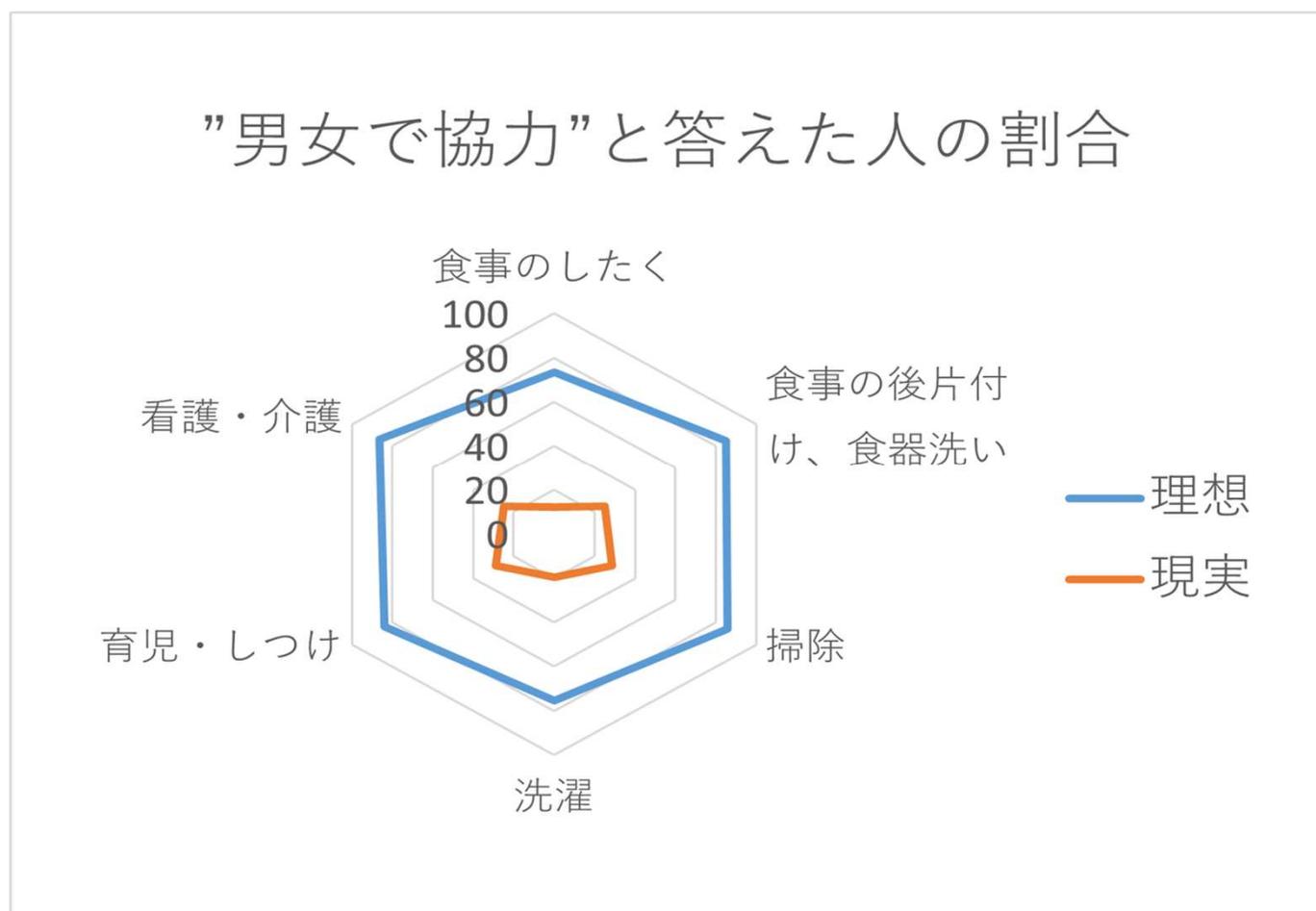
■依然として結婚・育児が女性の離職理由の上位となっています

女性が職業に就いたり、職業生活を続けたりする上で「家庭内の問題」が障壁となっていると考える人が多く、女性の離職経験者の理由を見ると、依然として「出産・育児」や「結婚」が上位となっています。女性が安心して仕事と家庭を両立できるよう支援する必要があります。



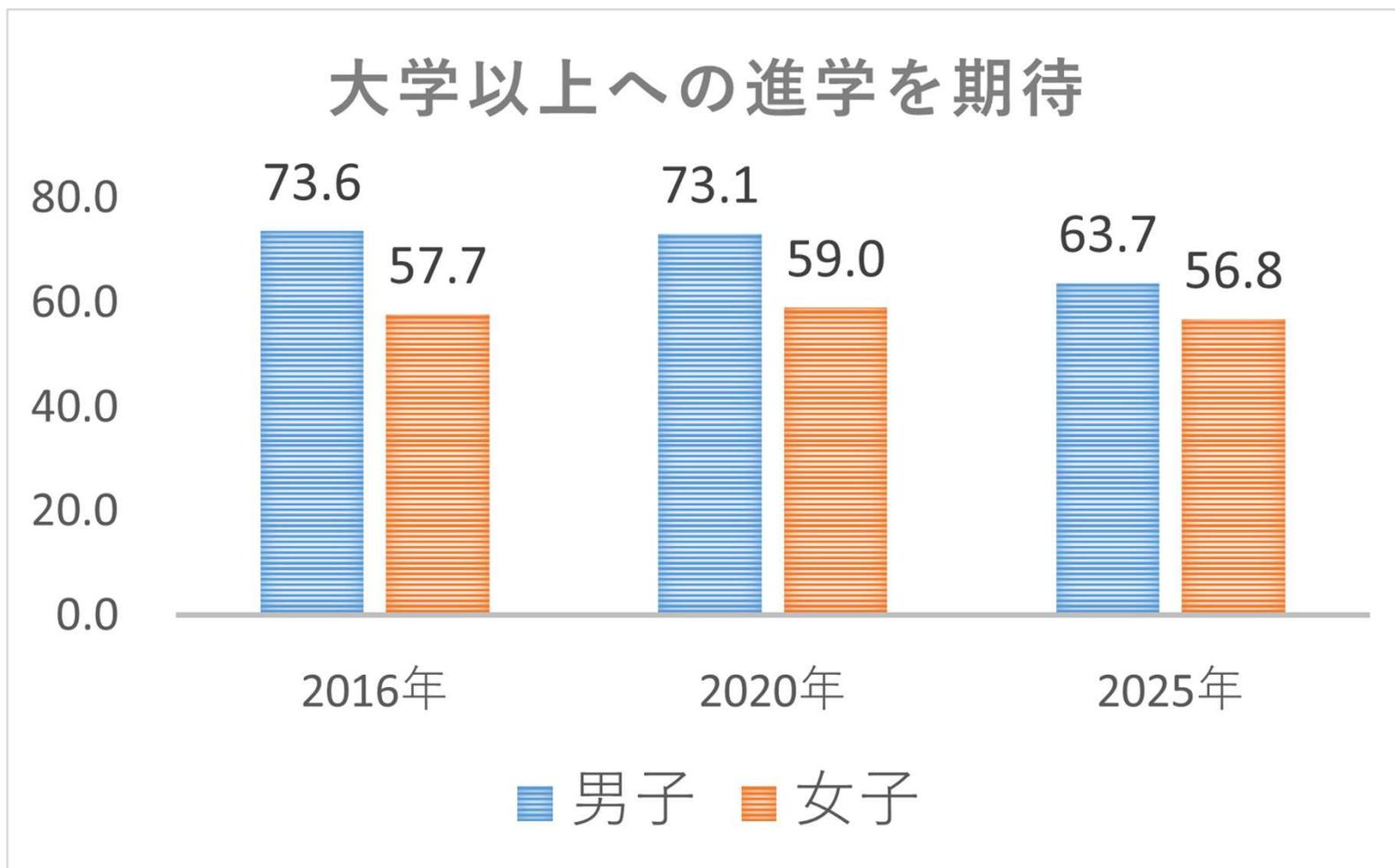
■家庭における男女共同参画の行動は意識との差がみられます

固定的な性別役割分担意識の解消が進みつつあるものの、意識と実際の行動にはギャップがあります。女性の社会進出が進む中で、女性だけに負担が偏らないように、男性が家事・育児・介護に積極的に参加できるような環境づくりや意識の醸成のため、今後も理想と現実の差を埋める周知・啓発が必要です。



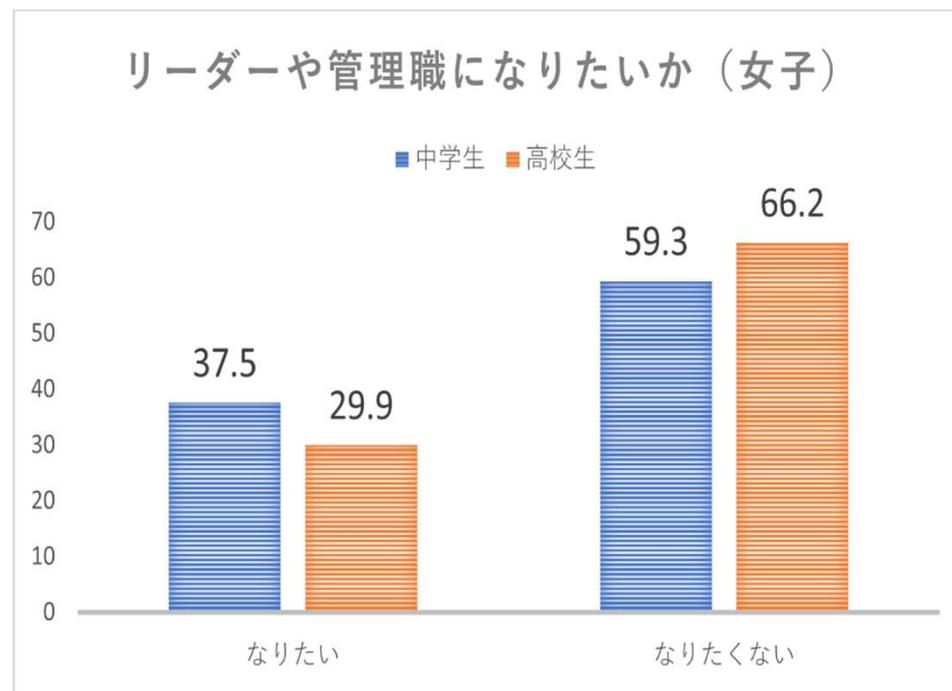
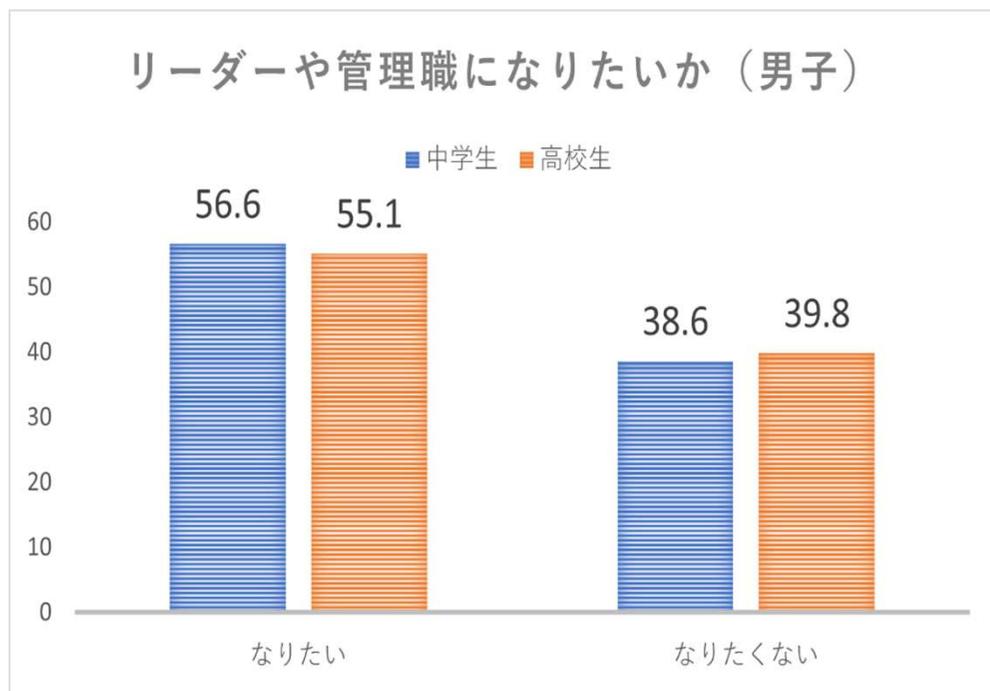
■子どもの教育に対する男女平等意識が進んでいます

男女問わず、大学まで進学することを期待する割合が5割以上を維持しています。多くの人々が性別に関わらず子どもの希望や能力を重視すると考えており、子どもの教育に対する男女共同参画の考えが浸透していると言えます。



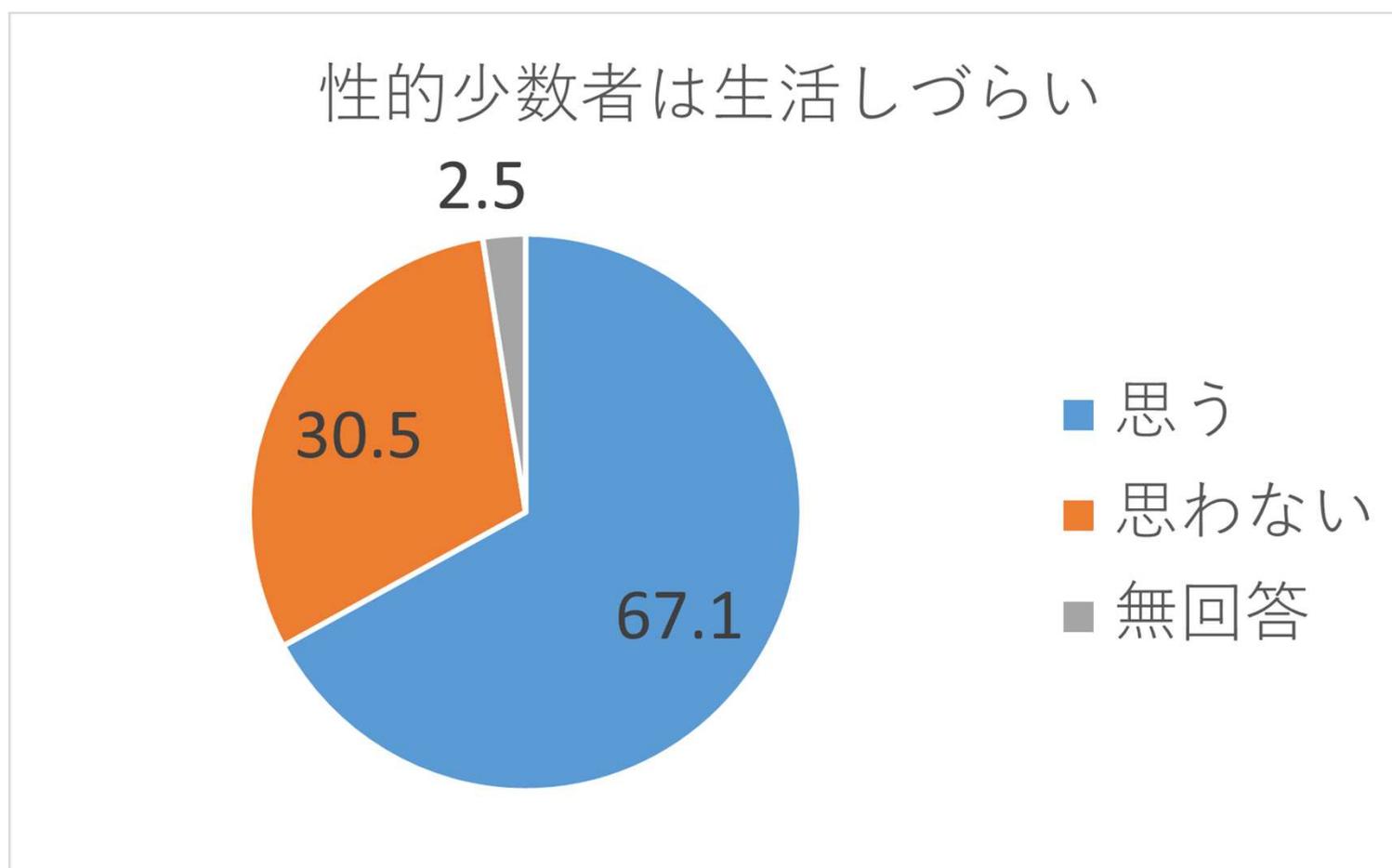
■ 中高生の将来に対する考え方には男女差があります

将来仕事においてリーダーや管理職になりたいと思う割合は、中学生から高校生になると男子は大きく変化はしませんが、女子は減少しています。性別に関わらず男女ともに個性と能力を発揮できる教育が必要です。



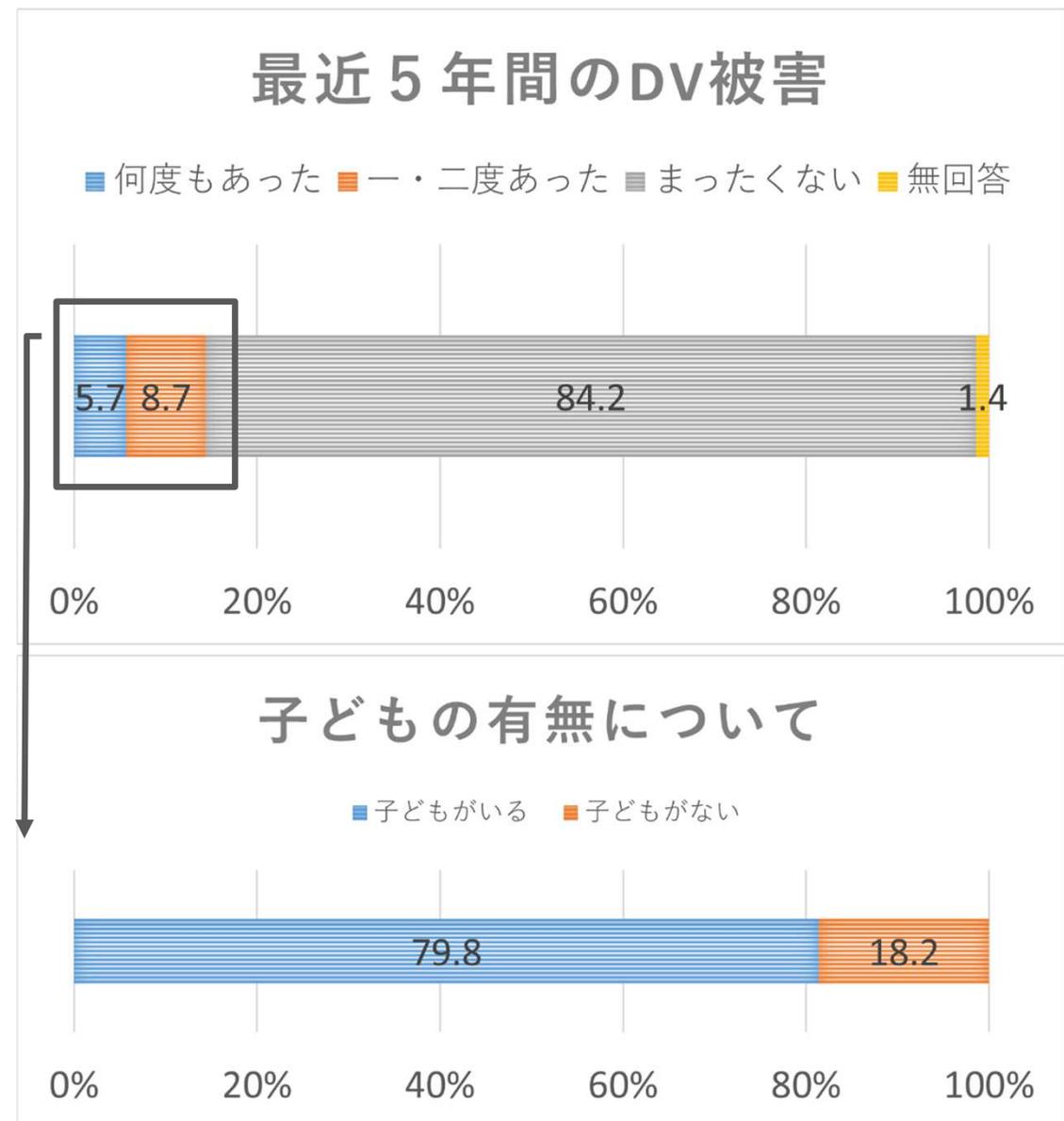
■性的少数者(LGBT等)が生活しづらい社会ではないかと感じています

身近な人から性的少数者(LGBT等)であることを打ち明けられたら好意的に受け止める割合が高いものの、偏見や差別等によって性的少数者にとって生活しづらい社会ではないかと多くの人を感じています。偏見や差別の解消などに取り組んでいくことが必要です。



■約7人に1人がDV被害者です

DV被害経験者は、およそ7人に1人にのぼり、男性よりも女性が多くなっています。また、被害者のうち8割近くに子どもがおり、子どもの面前でのDVによる心理的虐待が危惧されることから、積極的な支援を進めることが求められます。



■災害時避難者のニーズに配慮することの必要性を感じています

災害時において、男女共同参画の視点から「避難者のニーズに配慮すること」が必要だとする割合が約65%あり、上位には避難所運営等に女性・男性の意見が反映されるように参加することに加え、生理用品や育児・介護用品等の生活必需品の確保が大切であると男女ともに感じています。

災害時の避難所運営について

